

フ変・用

今は昔、比叡の山に見ありけり。僧たち、

過去「けり」終

格助

宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」

サ変・未

意思「む」終

四段・用

と言ひけるを、この児、心よせに聞きけり。

過去「けり」体

四段・用 下二・未 仮定「む」体

さりとして、し出ださむを待ちて寝ざらむも、

打消「ず」未

形容・ク・用

推量「む」終

四段・用

（かたかた）

四段・用

下二・用

寝

わろかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝

存続「たり」体

力変・体

四段・用

たるよしにて、出で来るを待ちけるに、すでに

四段・用

し出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

完了「たり」体

存続「たり」終

この児、さだめておどろかさむずらむと、

現在の推量「らむ」終

推量「むす」終

上二・用

待ちぬたるに、僧の、「もの申しさぶらはむ。

存続「たり」体

四段・用

補助動・四段・未

おどろかせたまへ。」と言ふを、うれしとは

四段・未

尊敬「す」用⑤ 借① ↓ 児

四段・已

思へども、ただ一度にいらへむも、

下二・未

仮定「む」体

四段・用

係・疑

待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ば

過去「けり」体

係・強意

れていらへむと、念じて寝たるほどに、

下二・未

サ変・用 下二・用

受身「る」用 意思「む」終

四段・用

補助動・四段・用

「や、な起こしたてまつりぞ。をさなき人は、

感動詞 副詞

借② ↓ 児

終助

四段・用

形・ク・体

寝入りたまひにけり。」と言ふこゑのしけれ

完了「ぬ」用

過去「けり」已

四段・命

ば、あな、わびしと思ひて、いま一度起こせ

四段・命

に、食ふ音のしければ、すちなくて、無期ののち

四段・命

に、「えい。」といらへたりければ、僧たち笑ふ

下二・用

過去「けり」已

四段・命

今となつては昔のことだが、比叡山の延暦寺に一人の子供がいた。僧たちが、

夜に手持ち無沙汰で（退屈で）、「さあ、ぼたもちを作ろう。」

と言つたのを、この子供は、期待して聞いた。

そうかといって、作りあげるのを待つて寝ないでいるのも、

きつと（体裁が）よくないだろうと思つて、片隅に寄つて、

寝た振りをして、（ぼたもちが）出来上がるのを待つていたところ、もう

作りあげた様子で、わいわいと騒いでいる。

この子供は、きつと（僧たちが）起こすだろうと、

待つていたところ、（一人の）僧が、「もしもし。

目をお覚まし下さい。」と言つたのを（聞いて）嬉しい

とは思つたけれども、（もしも）たった一度で返事

をしたら、

（ぼたもちが出来上がるのを）待つていたのかと

（僧たちが）思うと考えると、もう一度呼ばれてから、

返事をしようとして、我慢して寝ているうちに、

（別の僧が）

「おい、起こし申し上げるな。幼い人は、

寝入ってしまったわね。」と言つたので、

ああ、困つたことだと思つて、もう一度起こして

くれよと、

思いながら寝て聞いていると、むしゃむしゃと、ひたすら食べる

音がしたので、どうしようもなく、しばらくしてから、

「はい。」と答えたので、僧たちはこの上なく

笑つた。